12月1?日：二刀流とは双剣に非らず

◆

「ふははははァーッ！ 背鰭から魔力カッターを射出しようが所詮は魔力！ 所詮は魚類(サメ)！ 哺乳類(オレ) feat. 哺乳類(シャチ)＋海喰の剣(ブルー・プレデター)のトリプルシナジーに勝てると思ったか！！」

前々からキ……少々思考構造が蛮族寄りだとは思っていたが、やはりというかサバイバアルの薫陶を受けた着せ替え隊の面々はこの海底コロシアムに意図的に海中への「穴」を作ることでモンスターを引き寄せたり迅速な「自然死（自然の脅威によって死ぬことを指す）」を行っていた。頭がおかしいぜ。

とはいえ、本来なら船上から釣り上げるか深く素潜りするかしないと遭遇できないモンスターと比較的楽な条件でエンカウントできるのは強みと言えるだろう。

海中で仕留めた「鰭薙ぎ(スラッシャード)」の素材を手早く回収した俺は呼吸困難(・・・・)になる前にさっさと海中コロシアムへと戻る。

「つまり二刀流ってのはこういうことだ、分かった？」

「うえからしたまでなにもわからないわよ」

おいおいウィンプ、それはちょっと……

「足りてないんじゃないか？」

「肯定:不足しています」

「な、なにがよ……」

「「インテリジェンス」」

イェーイ、とハイタッチする俺とサイナ。そしてぷるぷると震えるウィンプ。一体何をしてるかと言うと……着せ替え隊、というより元々はサバイバアルに依頼していたウィンプ強化計画の経過確認とちょっとした「授業」であった。

……

…………

「何？ お前も二刀流にしたんだ？」

「なによ……わるい？」

「いや別に？ DPSが出ればスプーンだって担げばいい」

ウィンプが選んだのは短剣サイズの双剣のようだ。俺とてこのゲームを始めてから今に至るまで二刀流使いだからな、多少は二刀流に一過言ありとデカい顔もできる。

というわけで試しに模擬試合的な感じでウィンプの動きを見てみた、のだが………

「ウィンプ」

ビチビチビチ。

「なによ」

「双剣は(・・・)やめた方がいいと思うぞ」

ウィンプのレベルやステータス的に端から負けるつもりも負ける気もなかったが、それを差し引いてもウィンプと双剣の相性が悪過ぎる。

「わたしがよわいから……つかいこなせてないっていいたいわけ？」

「いや？ 一応戦士ですと言える程度には動けてるけど……んー、」

成る程確かに着せ替え隊の教えをラーニングすることはできている。ただこれは技量の出来不出来というよりそもそもの向き不向きじゃねーかな。

「双剣じゃなくて二刀流の方が向いてるんじゃね？」

「……は？」

双剣は剣を二本持っている二刀流だが、二刀流は別に双剣ではない。とんち問答のようにも聞こえるが、割と真面目にこれは真理なのだ。少なくともこのゲームでは。

「双剣は剣を二本扱う事が前提だろ？ 二刀流は違う……二刀流は、両手に別々の武器を、両手に攻撃手段を持たせることだ」

「なにがちがうのかよくわからないんだけど」

「仕方ねーな……ちょっと実演してやるよ」

…………

……

……と、そんなわけで刻傷にも怯まず喧嘩を売ってきた泥掘り(マッドディグ)の親戚みたいな鰭薙ぎ(スラッシャード)をぶっ飛ばしてきた俺はコロシアム一角のガラス張りの窓からその様子を見ていたウィンプへと振り向いて一言。

「つまり二刀流ってのはこういうことだ、分かった？」

「うえからしたまでなにもわからないわよ」

おいおいウィンプ、それはちょっと……

「足りてないんじゃないか？」

「肯定:不足しています」

「な、なにがよ……」

「「インテリジェンス」」

イェーイ。ビチビチビチ。

さて、そろそろウィンプが癇癪を起こしそうなので真面目に授業をしてやりますか。

「いいか？ 双剣は剣が二本あって、その二つのシナジーをコンボさせる……要するに剣が一本でも無くなったらその時点で「双剣の戦い方」は破綻するわけだ」

俺は海喰の剣を片手で握りながらもう片方の何も持っていない左手を開いたり閉じたりしながらウィンプに告げた。

「これも二刀流(・・・)だ」

「……わたしのこと、ばかにしてる？ なにももってないじゃないの」

フフフ……そこが二刀流と双剣の違いってわけよ。着せ替え隊は確かに良く善く双剣の扱いについてウィンプに教えてるようだけど、キャラ設定の好みなんぞ効率的キャラ育成の前ではフレーバーテキストよりも価値がない。

適性があるならマッチョにヒーラーを担当させるし可憐な妖精にタンクをさせる、それがゲーマーというものだ。そしてウィンプの適性は「二刀流」でこそ輝く。

「いいや違う、二刀流ってのは「両手それぞれに攻撃手段を持たせる」って事だ。これは右手に剣、そして左手に「拳」を持たせた二刀流だ」

二刀流、という書き方が悪いところもあるが……双剣は両手が持つ二本の剣を組み合わせて「剣技」を行うもの、二刀流は両手それぞれに持った武器を活用して戦う「戦闘スタイル」だ。

両方に剣を持たせる必要はない。例えば銃、例えば短杖、例えば拳……盾だって広義の二刀流だ。これを理解してるかしていないかでプレイヤーの強さは全くの別物だ。

「いいかウィンプ、お前の薬用洗剤みたいな毒でも目に浴びせれば目潰しにはなる。右手の武器が封じられたとしても左の拳をあんちくしょう(・・・・・・・)に叩き込める……一つの戦法に目を眩ませるな、二本ある腕を一つのことだけに使うのもアリだがもっと多くの可能性を持たせるべきだ」

一意専心も悪くはない、だが二刀流は一意専心も「選択肢の一つ」にする事ができる。

「……つまり、どういうこと？」

「剣二本振り回すだけで満足してねーで片手剣両手剣徒手空拳毒手なんでも一通り覚えようねって事だよ」

要約：練習量と密度を上げます。

それを理解したのか、ウィンプのただでさえ白い顔色がさらに青白くなっていく。

「安心しろウィンプ！ 俺も手空(てす)きだしここにはいろんなバトルスタイルに精通したやつが沢山いるからな！」

「わ、わたしそうけんつかいでいい……」

「あっはっは」

ビチビチビチ。

「あのー……」

と、ここで遠巻きに見ていた着せ替え隊の一人が恐る恐るといった様子で俺に話しかけてきた。

「何か？」

「あーいや、もうこの際そのやけに鮮度の良さそうなシャケの覆面？ については聞かないんですけども……」

現在、俺の頭装備はリッチマン・キング・サーモンの頭面(かしらめん)………を、インベントリア内にあった（俺自身存在を忘れかけていた）素材で強化できる事が判明したのでビィラックにちゃちゃっと強化してもらった「富める鮭王面(プルト・サーモン)」を装備している。

水中呼吸の一個前の効果である水中行動時間延長の効果が付与され、強化前よりもイキイキぴちぴちした鮭の面は新スキル(・・・・)と併せて俺に水中戦という新たなバトルステージへの進出を可能とさせた。

「………正直、折角ボンバーバ……じゃない、ツチノコさんが聖杯使ってるなら出来れば顔見せてほしいなー……なんて。へへっ………」

「………成る程？」

じっと生気を取り戻しつつある鮭の眼差しで着せ替え隊の面々を睨みつける。大体のメンバーは目を逸らしたり口笛を吹いていたが、数人は何故かいい笑顔でサムズアップしていた。

「異形頭は自分性癖(オッケー)なんで！！」

「私異形頭なら無機物系が好きなんですけどこれはこれで！」

こいつら………鮭ヘッドを意地でも外さない決意をさらに固くしていた俺であったが、とりあえず全員一発アッパーカットを叩き込もうと決意したところで響き渡った叫びがこの場にいる全員の動きを止め、そして視線を集める。

「出来た……っ！ 出来たぞぉぉぉぉぉぉぉぉ！！」

「何が？」

「基礎理論(・・・・)だ！！」

少なくとも裁縫をこれからしようって人から聞く単語ではねーな。

「きそりろん？」

「ああそうだとも。かつて私が手がけた「武凛衣(たけりえ)は装飾品配置とサイズ、そして生地の素材とのシナジーを三十四通りの施行の中で見出した比率で縫合し、さらに裁縫系魔術の習熟によって完成させた当時の考え得る中では最高クラスの長期戦闘補助機能を備えたメイド服だった。だが月日が過ぎる中で隠し最上位職業の解放及び魔力…否、マナ粒子への理解深度が進んだことで生産職は新たなステージへと進まざるを………」

「早口言葉ならそこの海面に顔突っ込んでやってくれ。で、手っ取り早く結論は？ パトロン様は何をすればいい？」

「いくつかの素材を用立てて欲しい。まず一つ目はなるべく等級の高いラピステリア星晶体───」

「あるよ、布作るのに一等星級はほぼ使い切ったから二等星級多めだけど三等以下も欲しいならインベントリアから出す」

「………あ、ああ。二等星級がこれだけあれば十分だ……うん。次にリヴァイアサンで購入可能な粒子回路構築マニピュレーターを───」

「リヴァイアサン・オンラインに接続、購入っと……ご一緒に粒子観測ヘッドユニットもどうですかって勧められたんだけどこれいる？」

「パトロン様、靴を舐めます」

「靴くらい自分で洗えるから結構ですぅー」

新鮮な磯と清楚の香りが芳しい鮭顔スマイルで返しておいた。ビチビチビチ。

こう……若干気怠さを漂わせた開拓者特有のすらっとした肢体がほぼ下着に近い初期装備で動いてるもんだからこう、水面から上がる時に水滴が滴る腹筋の引き締まる動きが見えるのが……へへっ（本当は競泳水着を着ませんか？ と言いたいけど過去にスク水を着ないか提案したサバイバアルがこの世のものを見ているとは思えない眼差しで睨まれていたのを思い出して言葉を飲み込んだ代わりに着せ替え隊の一人から漏れた寂しげな笑い声）（頭が鮭じゃなけりゃあなぁ……）（異形頭だからボディが"映える"んだよ）（こいつ、直接脳内に……！？）